雲泉雜志

巻一

雲萍雜志巻之四

抑里恭　稿

○

朝がほを栽ゑる日より茅ざくを待る子を育つるおやのこゝろもくやさぶらひおもひ寄る二葉よりいや葉生いぐいと細やうなる夢の姫ゐ立つ〳〵さるきいとけなき児のそのとゝのめくたちをむるふ紙をつゝやこゝろ葉いよゝ高げりて古の夢かのつゝまを枕つゝこの夢を養てあゝゝふぐどゝく競ゐが如きを踏みまどつゝるものを兼ねするさゐあり何るを登らんとするかの井手をとりて引あゞゝるさゐまゞど絶ゑも功めるものをやゝ乱ハゝの日ゝ〳〵色ゝく〳〵おのゞゝ〳〵深ふしも て風よ興ゝの勢ゝをすむるにゝあゝゝゞ古のゝ色ゝ明

3864

藤田氏藏書

初ねど霧を含たるごとよ吹風まを及まで おのげまおきあ
つずかりこぶせぞたるくこれなのろの雪とうけく雪も溶く
さるすづく窓にわいろくこと父子おあれこと夫婦おむつび
兄弟おたすけ 朋友おあくまひとく人の世まあるもこの
品の如くろのかくとと形ぐあがさくもいとふぐろくくく
めとまぐこまる起いぐあのめれ曙とあぐさこ作りぬ

○ 活数所よいくとと知を味ひあく看数接まおよぶときを美こ
形く 烟草数やくか吸ぶこ手きハあぐこを生ぐ 茶数碗まおよぶ
こきハ香ばくくこば

○ こくかりく時と忘れく食ぬこあのこれ多き林のやま猿
手が居まぐるころ釈くく交たる女あくく雑黍の約と

結だんことをもとむ五ぞ諾くく好まろれ志くくと足ばや
ここあろ附食客五人残書小朋の事落れバ一人まを金
五文をあてこ二十五文貸しまれこころの人まを乞ぐいと
安きを知りとくこづくく指きく貸ろまを出案の来乃使
遣ずぞ又二十五文貸せまくいなを先まを貸くこくとをい
たでこくびをかて来り貸くまろれまこをセをるれ
ぐもこぶねのをハかくもいたでおまうをれる人も形くいよく
釈くこと文ハまろるまのの人をくこば福あくく多くのおぐ
ね入ると知れどもかくもを色まを出さぐりけるぐるの妻夫ま
云ろるをを十五文のこぶねをあくく七とをるを返さぐるハ敷き
奪ふんぞといまを吾とまを彼人平とあざむくんるくこへく

きづかひ名過ぎるあり刻致方支情ハ婦女子の知恵ならこ
ろまあらずいさびしきすとといきづ夫婦の縁と絶づ〜といき
どりまづこの婚書もいたづかるたれーとあるを人来
ぎるく予ま告るれハ予ハそるの金と金ら〜て返さるとの能
ハざるを物主バ告るる人まく彼変よいろるく予がいふと我
るの人まるたるにるれ人こるるるくるるハ人ハ不変を分〜ろう
らるくるれ変りを絶するハ知色親変ふるふまあるず歎くも
不変をるのおるるれ是飛ぶきあるて世ま始めより非偽を
るるのるく人ま変るる挙ハ分〜るれいるるとのざむくるを
弾きづまず知色親変とハ云べるるくるく予が用まこるるよ
〜るのをきてよるも惜〜たる交金の織も解るねバまづ

たるまるをるの人ま返て予ハるれ許を試〜るとてまづ
孝く交るる
情愛ある主人ま忠をあるく差懇ある親不孝をいるるハ誰も
為すづきるるいどをめるぐきるするぐきるるれき主人
怠怨ふき父母といるるものの世まあるるも見るねどさハれる主
人をるるれんをおりひやるるどのかさけも形く書文幾冊と
ある人ま産の子をるぐるる差妻ふきひどるもたるるふきふ
るをあるざるるれる人乃人ハ名人ま威をりて自存ま
呂体ふづきるものとんるハるが分をるるるバ人の痛
えを弁へざる世事ふ月れかき猶合点まおぎるの不人情
ふるて研まるけぎる社分の如く磨るでれるる強まひるるる

慢多ハあぶきよりのぞく親兄ハこゝろよりおこることなれ人各孝
ハ各のゝ愛知れども互恨と約するまいり形ら義親子と契ら
いゝあるゝ理夫婦と縁むすびいりあるゝ頂朋友と交るハいりあるゝ
ゝとゝいふことゝ子ならうつゝめゝおこるハざれバ人あも感じはゞき
まあゝゞ係ゝ不仁の至こゝろふともその因縁ゝゞして君と憂
ゝ怠怨かき養父親兄の後母ゝうこも契り深ゝゝゝく子とあれ
バ不仁の君ゝ陛ゞ君と考ますれよき的あゝゝ全怠怨の親ゝ
子ゞ孝行の用意ありうゝてこの為ゝゝあゝバこゝゝ人がゝき已
あゝゝゞゝあゝ人親ハ為ゝゝ親ハこゝゝあゝゝハゝのびゞゝなもいあゝ君バ
ゝの化ハ堪忍辛抱ゝゝ教みもはゝゞゝゞきゝこの形ひゝ子
き単ゝ人の形ハ交ハ交ハゞゞ大羊為ゝハおゝゝゞゞ大ハ親

とあるの性ありゝゝ親ハゝゝ家よあやゝきを以羊小孫遠懐の心
はりゝゝ兄弟乳母ハ源ハ遠ハゞ稚ゝ母為ゝ反哺ゝ婦ゝ三
枝の礼あ母学の附ゝゝやゝゝあひ煩悩の裸癩をゝとする乃
教ひ人常ゝ知るゝこゝゝありおゝゝ一家ハ繁業ハうゝこゝきゝ
人ありゝいふゝを出あるゝ人ゝゝゞゞゝ出ゝ有てる者ゝ人
も賢きゝまゝゝはゞれゞゝゝゝ豆腐ゝゝ人ゝゝゝゞひ白服競ゝゝ
ゝゝゝるゝの無号ゝゝゝ為ゝゝゝゝ天の命をうけて世ゝ為
めゝゝゝ不昼夜月日の如ゝ美民ハ為ゝ人労ゝゞゝゝまいゝ
食ゝ一ゝ民ゝゝあけ礼名利ゝ祝り考ゝて出ゝ居
ゝゝゝあゝゝれゝ已ゞ青原ゝあゝゝゝゝ不ハ稚ゝのゝゝあが
きゝゝゝゝゝゝ怠欲のゝ礼ゝゝゝ人犬猫ゝゞゝ付ゞ

○

ゝ〳〵人を第おれ是をすゝ是主従より仁忠倫ちう親子より慈
孝とゝめち兄弟巻敬をいづき夫婦巻和とゝのひ朋友信義
のねんごろを深うゝゝ志ゝて好よ人の人ゝる学ひ孫ありゝゝ
てゞ一切有情の物れ可と有りゝ畜類と異形る天下れ是ゝる
ゝゞ法ゝゝおのふよゝその第初乃是ゝる人古より世よ含を
殺すよ悪事ハ種ゝの悪是多く善事ハ必徳れ会いとのこゝを
右例ゝ挙ゝ口をゝゝ多ゝゞゝゝ又消まゝきことハあ
らゞゝ

雑波の野外よ的人ゝるふ野業仕あり裸ゝ寝をさゝ出ゝこ
の衣をねひ打と自ゝゞ寝よ指さゝ罵ゝ九を込ゝゝる鉄
砲をうゝゝせゝく美合をとゝゝ巻ゝけゝゝゝゝ法ゝ来人が多ゝさ

ゝふ二系をおてどゝ飛者の如く身をゝゝ九を廻るふあゝ
ゝをの絶ゝて多ゝゝゝゝゞゝのゝゝ世上よ唱ゝ言ゝゝきて
砲術れ師範する業何の業ふありゝの術のすゞれたゝを
ゝく門弟百有餘人あり門人来り集まゝ何ゝれゝ
拙ゞゝれちゝゝよ的人ゝ術を感ゞゝゝあゝゝきゝを乃我
打ゞゝるハ彩ゝゞ義乃ゝきん形ゝゝゝく師よ法ひゝゝれを
ゝちてゝれゝゝふよ師を些事を変ゝくゝゝを以をゝゝ
云ひゝゝ正統乃大術を待へ表ゝゝることのゝさやゝれ邦業仕
をおこゝゝすゞゞゝゝくい弟ゞ表孝の法よゝゝ乃ゝ奉乃
殺生形れ拙ゝゝゝゞゝゝと門人を諭ゝどをおのゝゝ称ゝゝ引
ずいふ師の作ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ世ゝゝゝゝ業を為決撃

多くあるべし火鄰は学びくせんかの師弟の約を辞し
ありぐきすべくと行をろくべくと述るまで師も業ふさ
りあるべし兵法おのおのさるべし的人をおぐべくそのを
と雅は所へ出て足痕を捨てく門人あるべき引つれ邪外まで
て的人をおんらふは的人をどり出ることをあるべかと
故に師を鉄砲は玉をこめびぐを切て衣類をおべ的人
烟りれ中は繋れり門弟繋き屈伏しく師ぐ迎鄰の妨を
ほうる残ぎびいるある法まておとるまてまう奥義を拝
しぬいれうとこるくしに出ぬる射この術かんぐ奥後あ
るべきの的人は孤を殺する形り邪手食れ為まるまふ隨ひ
邪をるれ衣被の中は通まるく形容を速慧の人ふ現るる的

人をおりのも虚空をおかり予はるの通まるし衣被をおべ
邪手れ死骸もあるべき形りといはれたりしぐるの翌日まで
て人乃嘩は老孤の九ふ嘩りるく死しるぐ雑波れ罪はあり
るるとぐ師は雑度をれこかされて邪广のりうを知れる達
人をいふべ

○

孝は忠おと良は平田ちるふ精金ありりのこるの信拝す
やいと善悪ありきふくくるくの法を教育する中ふ
悪法師と異名を流し悪僧あるれ性人は強ることなく
よりづるべおくはひるれども信拝は厳しく戒ることを
せべ業ざふ経おべ已より孤てるの形状をおるべしとすす
おるある者を邪まるきびしく去く悪僧をばさるべるも

せざりしなれども人々乃云ふまゝ
星の人ふを依怙の人あるべし
傍乃ちを出奔したり但指ハおどろきつゝ人をしくあるこ
求めあれども彩の知れざりしなり集まり何ら失ま
しねこやあると穿鑿するまゝ彩ふるまゝ日あゝ彩毋
子講金ま立りしる弟金八十あを但指ゞ手筥ま入おるゞ
見ざりしれバこゝ彩おどろき板こそ思ひ師ゞ去ぬ彩
まゝ大勢手ぬけして彩方を見とするま但指ゞめるゝ云
けるゝ彼ゞ金を持ゝ彩ゝんまハ気ちや見ぬるま及だ
ずぬれさきま人をゝ求め去ぬるゝ矢義して旅へ出かバ
さゝゝ不月中あゝめと諸資をもあゝつゝゝとれを

ひゝ中あり已ま八指あゝいふ黄金を持彩おさゝ義り
て困ぬるゝもあるあゝ星バゝゝする中ゞこゝ彩を
考すゝ業ぬひゝゝまし易ぬるゝあゝゝと
ゝ浮ゝ対ふをいざさゞ彩りぬ
ゝあゝ玉の宮経廣いちんゝあゝ掘ま出ゝ彩ゝ
ま墨風砂と吹ゝ中ぬれゞまうゞひゞまゞして食ぬ砂
ありゝゝ結仕業を去ぬゞけおゞし只漏ひ娟ぬる旅を
客ゝ忠あゝ居下を換ずゝと数多ありしゞある時いふゝ
てんやつゝざりゝん解乃あつゝ抱仕中ま殉ゞりの何りゝを
法出して種の上ま裁おきやされゝまゝゝ羅暑乃調
理ゝゝ若ハゝふいゝ女をきゝ庖丁の者ふハ切板中

つくべきありことあり又五ぢ料理せしものハ切れあり
とぞ飲食乃ちあり人を失ふことんあるべきをあるべし累
の服明者子も飯ハ中ふ堀の死しさるあるしと著をく
元出給仕ハ筆ハ又也ぢと猶紙のげハ強さるとぞい
こありぐくきてぞもあり
手ぐ系宮のもとまころくと変やる者終日やまだいう形るも
のくひぐきまやと宮を推しくこを付ハ老さうだへし
翁ハ服ぐねをうけて過の上ハ石臼の月を切りて居うう予
翁ハ用ふ石臼乃月を切るとるれ数日ハ幾ぢぐぞ翁こさ
くく云切るもあり切ぐざる日をありごのふ又問ふ老翁齢
いくぢ多ぞやこうくくく年七十一あまをまく問子孫ありや

○

答人で云姫ありそやく婿を却くく孫二人あり予くくこ
ふ姫あり婿あくぐ老翁くくる業ハぢぢともかまあん翁の
云翁ハ今人のるをひするハ婿一人の働ふくく他ハ資くる
の筆ふくくるれ臼の月を切くくも俳計を補ふづき乃資力
ハ見くぐずとの人ども夕伸のくくハ侍に光陰を選くんよりハせ
めくくも奥紙の料をもたすけぢやとくくるあぶふき業を
ちあつる奥ひ女人の親ハ子をおりふめダくこ言きも紙く
きも奥ふくくを形きいくかのりがくきをのくるちひめ
名和又言御老年ハくの父厳ふくくく表州ハ届たる人ふ
をおさふ撰びのすぐハくくも児らハ契約せくくをハ中くくる
て言るくをれくある附半を引くる言の順ふぐくくひ毋

年を経ばと進ひ行きて[illegible]を嫁うけ[illegible]
家とその半よのせくに川端まで行うといふ童うけが
ひ養ふやうハ四年を乗せくに行づきが供ハ何をうこと
さらぬことなれば年ハ[illegible]家をうつ[illegible]門ハ出ふる松を
拾ひて[illegible]の松あり[illegible]その[illegible]ふ住すて[illegible]
やれとのふよ童よりこ[illegible]年を川ばさまで乗せ行き
[illegible]の婚をとせが[illegible]てひとりの男童を使ひ年が
家ハ来りて年が父ハ[illegible]ひこをせいあれやくに[illegible]
がこ[illegible]年幼んの義あれどもうの童ハこれを謀と
[illegible]半よのせくに賞とをこるハいふひ解くも背せず
いぐハせんとハ年が父これを学くよりさもあらぬ約

来かせしよたがひかくに切りせくきいすでこに童ふ
聞ませ門あるの大松の松を払ハ命ぐに切りせ半解ハ
とこりせ[illegible]童人ハこを[illegible]をいひつ人名わが約束の松と嘆て
今ハ[illegible]使てこり
菱野の義[illegible]と云る人料理乃ふをとくいこをこを淡
孫の産ありある動引ふつ人に好流浪せ二ヲ年が許
ハ来りて二とせ[illegible]と送れるあ[illegible]町家ふ住居する
とくさが仕ねをとせる打こり先打佛をたんいて日甚
の木像ありくるを見くに便をきく又法然の面像乃ある我
見て便を愛こをと使ひる人いぶりてこを社許ハ何宗ハく
おこ[illegible]と聞へが菱野こりひく家あ何宗と宗ありたる

たもふ〜依てこの二祖代中まく便乃下走ふるを哭て
その方の常首こそふるうんとおりつとのくまをあまるさるざる
おこ〜ろき志〜ふり
比叡の山ふる 叡家各の杉禅院まひろの老翁あり坂
本乃産まく農夫のる子形りるるが父世まおるれて十四歳
の附よりこ死ちる住居し〜々年九十六歳あ〜ろ〜予ゆ者
まあ〜りあ〜ろく耳目徒ふ〜て歯牙うけるるあ〜白髪
ふ〜〜〜煩骨あれいたたく命〜ふく力あり他へいで〜他の
おを食ゆ親へいづるまハ飯を掬りて掬まはけ易常の人
乃為る二日代用をひと日ふ足〜〜をどり乃逆ハちるハふ〜
てくふハざる人といさるりて仕ひるるまは塩三百要月乃借

財あり〜移精することはく〜ハざるを涙き乃ハ老翁乃
ひふ〜るまあに今二をを幸抱〜ふ〜乃乃働きてる
の借財をつくのひすふ〜〜移精さをヤ〜と云塩まを乃
うちふ何をるいふやとさ〜〜ふり〜〜老人の財ふ逆ハたのむ
とのひ〜だるるまく きのつとるぎ乃ふ〜〜て年月を送
乃〜〜ふ此老翁乃れよりふ〜〜〜不毛の地まハあを栽まく山林
の下茅を刈てる市まを夢ふあを縄をひ逆を織りあるハ人
代為まを産ハれ〜〜昼夜寝食を忘〜〜ふ〜〜働き乃逆ハこと
ぎ〜ちふ三百要月乃借財をすふを院まを左秦まを移精さ
きふ院を移精の財ふれ老翁ど働きの至天ふるを涙せんど
為まを使ひあて安居さ乃べ〜こすふれどを乃れ〜ハ此山まを

八十年も何家れこを立ずて他へ移りくの志しあるとき終よりも
ず形りなその好院を多くせ沙汰を聴りられどもおのもも交
ぶりくに云るも院主八人を富家するの役あり御名を
教化しぶりくに家お材を持うるこも人の教化も出来ざるか
ら用の材ハありくに蓋家材の用ハ人よりあるて石用の者
よりつるざる物あり多を終るまぐに会釈さえあるバ何をるるの
録を求むづきこるくくて又好ほるもいとねもごろよ法ろへ
とそく
家物堺の体裁も業ほよるるるぬ人まて古人の糟粕をか
めざるものの形り弟とるもお法よあり名ることろ業具お八皆自
が好むこころとあつらえく法家の法別よりるるずりく豪

留乃家を起しをぶりを少よ休憩て
こぶくく姐抜よ出り料理して汚者をとるのひ人せるて南ひ
をるくくを来客人を客らくくぶくのおをりて家くく抜いひ
るくくやうハ当今その中と達の働ををく家業日よまく
抜ふ留せり家お一人の乗為ふあるくに乗人ねをりく家お出
をるくのるるが四名形りくるふ乃汚食ハ汚礼のす志ふく
抜家の孫味よハあるねどこるよく足さるくくれバ今日一日
ハ弟が客ふくて来客人よあるねぶ大るこの座奥ハやる度ぶく
たぶ家ふよ疎を来くて唄少ぶくく舞少ぶくとく家内ハ
その日他形形くく来客人乃老婆をさけぬこの休憩が出て
たる分家諸出よ多くを狭朝日十五日サ日れ二日を答応の

日ごろの日ハ歌よみくゝあく〜遊び日を他人行する形り
遊びも遊山戯場ハたとよゆ遊里とゆゝども男子かを主人
ゞ慰むるゞ社をハ幸今人ゝも慰ませ知する者ハ忽ひとゝ毎を
法ゝ寺院ゞ仏ゝ参ゝ歌法ハ法やく人と立て分家せしめ
てつゝゝて急ゝぎれバ歌よ子と換ずるのとまゞゝ分く本家
ゝ〜繁業しゝ〜ゝ分ゝ家業さゝん分ゝ休暇いまゞゝ暇
居せゞゝ〜法ゝ日ひ朝あゝゝ系子出ゝ何柔の大納言ゝ
えゞめてまゝ又ゝまゝ〜せゝ〜時用のとすゝゝ浮ゝ子ゞく
拘ぶゝゝ社序大納言の仰せゝれゝゝゝの評知ゝとよゝ
ゝゝやゝまゝ〜ゝ五バ方法のゝいゞゞ仏ゞけ作ゝゞく〜ゝゞ
又仰ゝゝゝよハ凡大家とゝゝゝゝ文の序子志〜序多風

流のおもひゝゝらざれゞよゝづゝゝかゝ〜ゝ知〜ぎ形
〜僧子斉家の序ハゝゝぐゝちゝ堅固と伯へざれバ人ゞゞ
きゞ〜その人とゝゝゝ〜風雅乃仏絶ゝゝくこの歌子生
まて子の一首をよむとを知ゝぬハ声かき弓を蔚絞ゞ
ゝゝる籠子飼ぬゝひとゝ〜ゝ美ゝ〜ゝ撰ゝる家乃
あゝゞのうひもゝ〜ゝあゝゝ体裁祇づゝゝと生ゞてやゞそ
大納言と仰範ゝ〜承ゞゝる知ゝ多ゝる中子家のゝゝ下
ゝ〜ゝゝ

ゝゝと以ゞ月も沸〜きゝ〜ハ〜ゝたれゝあゞの沼子ゝゝん
世ゝ人乃辛苦とゝゝ見ゞぶの言を祓ゝうゝる附古今知ゝ
集の序子要ゝゝゞ序秀ゝ社ゝと評〜ゝゝゝの社ゝ子員

たゞるを祇園〳〵商人のよき衣着こなしたとつゝと足て愕然とおどろきヨウ子のうへどさとうこれよりゝ〳〵生涯子ヨウ孤着とゝどを絡彼をきゝ絡をゝ〳〵おれつゝこゝをゝで家内北条子ハさゝ多りをゝびとのすゝ〳〵中でも衣彼の制を厳ゝ〳〵おごり好ゝ〳〵しめたり蒲団こゝゝ古と名ひゝく猿羅紗紬の類をいふまでもかゝよれおゝどすべて木綿のこゝゝて一家紬布と足ゝとかゝこの家ヨ制禁の筒条あり

按

一商人ゝゝ子分手ね着ゝも紬の類を着すべゝたとひ分家の者たりとも按ヨ省ゝをの名子帝暖簾をあげの

○

上用家業おろそかの事

本家お嬢人雅

予ゝ者を表ゝゝ暁山とゝふ若盛歴せるおゝゝ信濃ヨ妻ををとめ善光寺の者より世帝〳〵烟子を商ふことを家業とせしゝ以ゝを乃家まて蕎麦の粉と搗ゝ池ゝせゝゝゝヨ好おありゝゝ者ゝゝ食ゝれゝ給仕するこのゝ孔大食ヨ無ゝてゝゝゝハ出すと彼のふゝゝもいゝゝ食〳〵さそ絶ぬるこゝを徒ゝゝ弥耳ヨもゝまゝゝて用をゝゝひてハ盛り杯〳〵ゝゝ胃まで満ゝ彼ヨハゝゝずこのゝへハ湯ヨくもハゝゝべ〳〵ゝれゝゝ送り食ふゝきゝゝて給仕のヨ孔を足けゝゝおゝゝて者ゝの彼へ食ひゝゝゝれゝゝ足ゝ給仕の者

八湯を汲み来るを云ぬるひまふ撓を持行こてびを山の如く
雪あげ是限ぞとすゝ出るまゝ止事をなずゆく湯をとゝとむ
ハとゝぐふく掃うけ居れバ給仕仕来るゝ出る掾のトへ
奥ふく投入れ食ゝ物まゆゝかさんとせ〜を蕎麦搔乃
撓のそゝまひくゝ汚きゆゝれバあるゝ碗とも掾のトへ投入
ゝゝバあゝ〜客多いぐゝつきやうもあく〜ありあふ杖をどま
てゝき搜〜易ぬれぐるさゝゝまゆゝを形ゝれバ事のよゝあゝ
らきゆゝまゝびく〜ぬゝとぞあ食ふふもゝどのあゝぐくゝゝ
ゝふを限りあゝぐ〜
熊谷次郎入道〜関東へ下向せる打ゝゝゝ一人を孫より
美濃へ越ゆる山中まて盗賊二人あほとを支つく孫衣彼を

ゝゝゝ〜ゝゝ友人刀をぬき法師ゝ自ゝまゝゝ入道笑ひ
あゝゝゝ安きことあゝゝゝの対あゝ命をうけく絨をゝぐく
すゝふ矛るぎの為くおもいれゝゝ孫衣彼をふきすゝ
さあれどゝゝゝ易ぬるとあゝ安ゝゝへまてゝゝゝをすゝ
ゝゝふゝ絨ゝゝの汚れゝぎ〜きゝ接孫〜〜いゝあゝゝとゝ
易ぬるゝゝく以受ゝくいふぬゝ入道のやゝゝゝハ汝ハたゝ欲
のゝふ絨をあゝゝ又矛をゝるゝゝゝあゝ〜〜過ゝひの城ゝ
ゝゝて絨ゝゝあゝ〜やこのゝゝふゝの返答を笑まゝ〜〜ゝの
つふく〜ゝゝするゝもゝゝゝぬゝゝをゝゝゝ但ゝんゝあゝバ絨
ゝハゝゝ敵ゝあハゝつく飲食ゝふ自ゝあゝバいゝぐゝゝ人を害〜
人のあゝを奪ふゝぎや但ゝぬゝゝ命ゝ易〜〜ゝゝゝ業を

もすゝめけるに云に左あらバ今より兄弟となりて世をのが
れ〳〵し生涯無事にゐるゝの志もなきやめし二人ともその
志しあらバ今より直ニ伴ひて法をつたへて一菴の留守居とな
なして得させんと申しける宥しかし悦びにたへず拝する所ろ
し資を元出し二人ニ分ちあたへれ其賊まさ額と額とを見合せ
土ニ掌戦つきて左もなしぬかれてなみぶよりしく我ニ志し
を改め己が弟子となりてこれまでの罪障を止し待りてと
てこぶねをバ手ふざニ猶まですしく路をさげてゐたりしが
入道ハ大ニよろこび懐より兵を出し二人の盗賊が髻
をなぎ捨法師となして武蔵野なる菴ニてとなひ法名
一人を善心坊とよび一人を法心坊となづけ武野念仏の弘通

○
となしてめでたき往生を遂られしとぞ入道兄弟十余人のう
ちこの二人ハ死始めなりしとかや黒谷物語ニ見へたり
犬猫をやしなひ愛するものハ大かた人ニも情愛のうすきものな
り貴人ハこれまでへあれバさやうのことハあらざれども下司ニハ
多くあり飼ものに不便を加ふるほどなれバ人にも情ハあるべ
き理りなるを又入りて左もなきハ心底世にもいとふべし東
海道を通りける頃弟が宿りつる旅亭の妻ハ狆を愛する
こと類ひなく飲食ともニ狆ニ口うつしなとして他より食物
まじへあらひたる時も主人ニ喫させもせずしてまづ狆ニあたへ
て後ニ人ニも食ハせたり主人も愚昧なるゆゑを妻ニも許
せず狆ニ第しくそのいふことあたらるゝも人ニ第するニおなじ

こゝをよりてあらうの者おの妻より化名して神のうつゝぞよび
なるゝれ書おのれが子かゝれが嬰を書子らつれども神とか
くひよう〳〵くぐこく終言をうまく嬰をとゞけ〳〵とゞ必
嬰おのつゝまれを神よりくゝこそ祝もせず再び家よりうゝ
ひよ孫よりこの書子を書すると神のごゝセバゝれ家つ
かゝくさゝんと再更男帰のお為邪魔よおゆむくう
うゝ新ひ世よいと多うう
勝の書明よおゆうとのハれとある人れ色ゝ射
おゆうとハ神のまゝ考ずす小山田よりゆて云る妻山子云ゝう
とよゝて法ゝせ〳〵ゝとぞ神仏の霊験をゆんと知ふまゝ已

がんを応〳〵ゝ考くゝその正〳〵きんより会ゼざま)ゞ感応あゝとか
〳〵おのれゝ法と神仏よ恵ずるよハ命ををすつるゝどの人形け
ま)ハ感〳〵応ゼざゝれゝ人をすむゝ人を拝むゝこれく日じゝ
ゝゞ〳〵小町能因ゝ面色も元のを祈ゼ〳〵のこゝふくゝゝ天地も感じ
応ずゞゝゝず天地もゞゝ鬼神をもあゝれとおもハするゝ
くゝもゝの懺欲〳〵てよゝ者ゝ孫人ゝ考ゝ〳〵あゝゞゞ
一言ちの庫義を働ゝる老婆あり年七年よゝんく〳〵こ〳〵く
多弁いゝんゝさゝくあけゝれ人の嘶をゝひ妄盗のゼひをのゝ
〳〵ゝとゝいゝゝゝ〳〵ゝくゝゝるゝれゝばある人風体のこゝろあゝて
云ゝゝゝく多弁ゝ舌ゝ考ゝ者ハゝその元気をむゝ〳〵ゝ労て嘶ゝ
吸吸を書ハゝれゝハ必ゝとゝよ経命ゝゝとゝゝゝけま)ハゝれ

より好きの老婆かゝる生や老ゝ人あいたんとしてハ
止こゝるさゝいとをゝしゝとぞさゝゝ生のびたる老婆
の狂ひつまぐゝ世よあゝんとその人ぼゝひ欲よぎりれあぎ
ゝとおゞゝせゝ人のあゝ
暴風雨と倒ゝ溺ら人を溺ら地震て崩る雷おちゝゝ
水死するあゞ世よこれゝのゝゞひとあゞゝ天災ゝいゞを昊
ゝあんぞ人よ災するれとゝりのゝんや此ゝぎハひゝ人ゝか
ゝれより招くゝ考ゞゝ暴風の気倒ゝの出る地震て山
ゞれ雷よ撃ゝ大ゝゝ天地不正の気滞るゝゝあゝ射ハ
ゝの水きぎゝゝを倒ゝ乃吸環ゝて不石滅ゝるとゝのゝゞ
人ゝゝゝこれゞ為よ接死をゝるゝものハ多くゝゝ凶悪年教の徒ゝ

ありゝゝ天地不正の気人の悪心怒気よ応ずるあり所謂
日気あひゝゝの日声応ずれとゝゝゝゞ
狐ハ奸智ありゝ獣ひ多き為よれゞよゝゝ女ひゞめる
性を長ゝて人ゝせゞ狂ゝ癲狂ゝて晴忌ゝ人も暗ま
ず平然ゝ狂ゝあゝゝゝ乃傍の
あれ笑ゝ女へゝ宵八月のさやけゝ狂ゞのあつまりゝ後ゞ
ゝとゝゝあゝゝゝ耳をすませゝれ音ゝゝゝ響ゝ
祐のおとゝやあゝんとゝゞハゝゝあゝず向ひゝ長のこ
あゝゝ一ゝゝの義ありて他ハ人家ゝゝ狂ゞゝゝあゝ
ゝあゝゝ狂ゝ何云ゝれゝのゝゝ屋ゝおよゝ九年ふ
あゝゝゝゝゝれゝゝ人ゝこの音を多つけゝ年も

いぶりくろのごとくなる日ハ初て見ぬ人ハなくて人家ハ絶てかゝり
〜地形ハ高平の民ハ鼓板すれど古墳もいとゞ板つゞきハ
めでたきこゝあるべしや

雲洋雑志巻之四大尾

玉巖堂製本書目

江戸横山町三丁目　和泉屋金右衛門

資治通鑑正編　宋司馬温公編集　摂州有造館蔵板　全百十冊

第一帙　自序表目録　至漢紀二十　第二帙　自漢紀二十一　至漢紀五十
第三帙　自漢紀五十一　至晉紀十　第四帙　自晉紀十一　至晉紀四十
第五帙　自宋紀一　至梁紀四　第六帙　自梁紀五　至隋紀二
第七帙　自隋紀三　至唐紀二十四　第八帙　自唐紀二十五　至唐紀五十四
第九帙　自唐紀五十五　至後梁紀三　第十帙　自後梁紀四　至後周紀五

叢氏詩緝　宋叢桂撰　姫路侯壽篤蔵板　全七冊

此書ハ呂東萊ノ読詩記ノ説ヲ主トシ諸説ヲ雜ヘテ之ヲ發明セリ其説ハ安カラザル者ハ漸ニ己ガ意ヲ以テ補ク詩人ノ本意ヲ得タリ音訓名物等モ考證ノ精核ナル詩ヲ讀モノ此書ニ據ズンハ其編ヲ廢スルヿ能ハス

荀子箋釋　朝川善庵先生校閲　平戸維新館蔵版　全八冊

國史纂論　大華山翁先生著　長門明倫館蔵版　全十冊

此書ハ范太史唐鑑ノ體ニ倣ヒ神武天皇ヨリ中興ノ終ニ至ル迄ノ事ヲ載セ傍ラ諸家ノ論ヲ纂ヌ間自己ノ見ハ所々ニ附ル議論精核ナリ史ヲ読ム者ノ心目ヲ開發シ今ハ未曾有ノ著述ナリ故ニ皇朝ニ生レ史學ニ志ス人ハ必ヌ此書ヲ熟読セスンハアルベカラズ

民政要編　大華山翁先生著　長門明倫館蔵版　全三冊

此書ハ周礼司徒官職ヲ基ヒ民政ナル諸職本文ヲ舉テ其ノ初ヲ聖ノ給ヘル精意ヲ詳ニ述ベ

品字箋　近刻

合刻四書　孝經學記　片山兼山先生點　大學中庸　全一冊

孟子正文　片山兼山先生點　全三冊

周易正文　同上　全二冊

禮記正文　同上　全五冊

周禮正文　同上　全三冊

大學原本釋義　善庵朝川先生著　全一冊

趙註孟子　後漢ノ趙岐臺卿ノ解スル處ノ程朱ノ新注ヲ前ニ引ノ別ニ見ル處アリ　全四冊

左傳凡例考　越子敬著　全一冊

大學原解　錦城太田先生著　全三冊

先生經學ニ大功アル人ナリ此書ハ夫ノ經解數十部ナリソノ古今諸儒家ノ秘蘊ヲ發明スル精確ノ書多シトモ此書ノ如キノ最モ貴重スベキ書ナリ

中庸原解　同上　全一冊

三經談　晴軒太田先生著　全一冊

此書ハ論語孟子周易ヲ辨シテ學者講經ノ一助タラシム　錦城先生晩年ノ著述タレバ九經談ノ補翼アルノ書ナリ

客杭日記　元鄭界著　全一冊

論語考二編　宇士新先生著　全三冊

此書ハ經傳子史凡ソ論語ノ意ニ涉ルモノハ勿ル曲証ソノ精詳ヲ極ム學者ノ考鏡ヲ資ケテ最モ裨益アルノ珍編ナリ

疑問錄　人田錦城先生著　全二冊

程朱ノ學ノ人意ハ聖人ニ說ラザレトモ其若佛ニ[illegible]ノ道ヲ害スルニ[illegible]リ先生晴軒其似ナルモノヲ[illegible]ヲ最正ヨリ學者ニ[illegible]功アル書ニテ[illegible]家ニ必[illegible]ベキ編ナリ

論語一貫　片山兼山先生著　全五冊

先生ハ近古最一ノ考証家ニシテ清朝諸大家ノ影響アリ元祿享保ノ學ノ謬誤ヲ一洗シテ一家ノ學ヲナス儒者必讀ノ書ナリ

仁說三書　錦城太田先生著　全二冊

洙泗仁說一貫明義仁說要義ノ三書ヲ合刻スルモノ也先生數十年ノ精力ノ發明スル處アリ此書ノ著ス故ニ其說精詳當ニ古今未發ノ秘蘊ヲ啓ク云ヘシ附錄論語ノ[illegible]誤守等ヲ考ヘ經傳[illegible]等ノ數則ノ學ヲ[illegible]學者實ニ鴻寶トスベシ

鳳鳴集　太田錦城先生著　全三冊

先生ノ詩集若干卷アリ此書其[illegible]ノ作意ノ妙ヲ知ルベキナリ

晩唐十家絶句　[illegible]先生著　全二冊

杜牧　許渾　趙嘏　李群玉　薛能　陳陶　陸龜蒙　李頻　[illegible]　右十家　各言絶句ヲ集ム

先哲叢談　念齋原先生著　全四冊

此書ハ文禄慶長ノ際ヨリ享保元文ノ頃ニ至ルマデ名儒碩徳ノ行実ヲ列傳シテ其姓名字號裕稱生没渡故ノ年月日迫漢サスシル佛史劄記及ビ口碑ニ存スル言行ノ奇談ヲ悉ク採摭シテ古人ニ面接シテ往事ヲ見ルガ如クナラシム其言行篤実ナリ博覧アリ掩鼻ナリ矯俊アリ介僻アリ可貴可感可歎可驚可哀可笑可怪ノ佳話甚多シ故ニ看官大ニトル時ハ温故尊家ノ模範トナスベク小ケトル時ハ俗ノ談柄トナシテ囲炉寡聞ノ談ヲ免ルヽノ術此書ニヨラズシテ又何カアラン研尋ノ君子一度ヲ開カバ終日手ヲ離ツ事ヲ得ザル中ノオモシロキ書ナリ

藝林摘葉　井良翰子編著　全一冊

昔義ノ訓詁ヲ訂正シテ初學讀書ノ疑ト為ス簡便切用ノ書ナリ

蘇老泉文集　節録　全四冊

甌北詩選　清趙翼先生著　大典禪師評閲　全二冊

簷曝雜記　同上　天民曾先生著　全三冊

甌北詩話　同上　天民曾先生著　全冊

唐宋元明清朝ニノ諸名家詩ヲ挙ケ其優劣長短ヲ均ク究ヒテ精詳ヲ尽ス詩話ト同日ニ論ズベカラザル者

四王合傳　清無名氏　竹山堰先生抄録

○吳三桂　○敬仲明　○曲可喜等之事　○孫有勝之事

武功紀盛　同上　山陽先生著　全冊

煙草錄　浦柳園著　全冊

詩學韵海　大典禪師著　全二冊

世ニ初學作詩ノ為ニ設ケル書多シト雖モ韵字ヲ明ニセル所ノ書ハ多論ニタルモノナシ唐ハ韵字ノ下ニ解アリシ又唐ノ元稹白居易等ノ大家ノ集ヨリ長韵ノ詩ヲ拾出シ古人ノ隻句ヲモ載セタレバ是ニ據テ其用例ヲ搜索セバ益アリ一鮮ナカラズ

梧窓漫筆　錦城太田先生著　全二冊

先生平日随筆劄記・書也古今治乱ノ本原ヲ推シ風俗汚隆ノ係ル所ヲ論ジ博ク傳記ヲ考ヲ引テ証シ又學術ノ雅正ヲ辨シ大人ノ秘蘊ヲ漏ス實ニ天下有用ノ珍編ナリ

童子通　山本蕉逸先生著　全一冊

此書ハ訓點讀方ノ直ニシテ覽エ易キ方ヲ示シ且言葉ノ端ニテ人ノ朝ヲ受サル心得ヲノホカ初學ノ用ニ盡シ漏スナシ

駱駝考　它山先生著　全一冊

歸正漫錄　安井真祐先生著　全一冊

宋明名儒數輩ノ佛老ノ害ヲ論ゼシヲ諸書ヨリ抄撮シテ記出ス異端ノ邪路ニ迷ヲ者ヲ正シキ儒道ニ歸リ入ラシム

同後編　同上

前編ニ漏レタル妙論ヲ載セ又經傳詩文ノ源流ヲ辨別シテ其精確ヲ極ム前編ト同ク双璧ノ書ナリ　全二冊

同三編　同上　全二冊

向者刊行スル前後編四冊盛ニ世ニ行ハレ装本日ニ給服無ニ至ル今此三編ハ後編ニ漏タル奇事魂説ヲ輯合シ其外ニ蒼古人未發ノ新得ヲ掲示シ家庭ノ訓誡多論旁ラ博聞ノ資ケ詩文學習ノ秘訣ヲ都合六冊ヲ以テ全函鴻寶ニス

龍背發秘

太田錦城先生著　全二冊

荒井堯民先生校

此書ハ家相ノ蘊奥ヲ著ハシテ衆人ノ為ニ福利ヲ導ク妙訣ナリ古ヨリ此類ノ書數種アリテ生殺禍福ノ事ヲ載ルト雖モ元此事ハ易理ニ出テ聖人ノ人ニ教テ害ヲ避ケ利ニ就キ凶ヲ違テ吉ニ趣クノ端ナルヿヲ言ハズ今此編ハ專ラ漢土ニ云家相ノ周易ニ原ヅキ黄帝ノ宅經ノ簡文ノ竈經ナドノ秘ヲ探リタレバ古ヨリ傳ル家相ノ諸書ト互ニ發明スル処アリテ家相ノ理ヲ窮ムル必讀ノ書ナリ

龍背師傳圖說

太田錦城先生著　全三冊

荒井堯民先生校

此書ハ家造ノ形相地面ノ張父等ヲ画圖ニ顯シ圖毎ニ口傳ヲ述テ住人ノ盛衰公元ヨリ妻子眷屬ノ幸不幸親子ノ間ニ故障アルヿ宅輪ナル子孫出生スルヿ人等ニ不思議ナル者是アルヿ家ニ祟ルカ劍ヲ所持ナスヿ又火難水難病難色難盜難等ニ至マデ眼前ニ知得ルノ妙訣ナリ一覽シテ其虛ナラザルヲ知ル玉フベシ

春雪鮮話

荒井堯民先生著　全二冊

此書ハ方位ノ原委ヲ究メ本命的然ノ理ヲ明カシ鬼門ノ妙論凶方住ヒ難キヲ述テ俗人惑ヲ解シ且ツ壓ノ法ノ偽造タルヲ辨シ神ヨリ中段下段ノ祕訣ヲ考ヘ其同アルヿヲ著シ凶日吉日ヲ言ヒタル諸説ヲ論シタル日用書ニシテ暦用ルノミナラズ此書ヲ讀ベバ大ニ益アル良書ナリ

思貽堂管城二譜

廣澤先生著　文峯先生校　全一冊

此書ハ廣澤先生嘗テ和筆ノ製用當ラズ唐筆ノ善ニ及ハザルヲ慨シ專ラ唐ノ據リテ手ヲカラ細筆巨筆ヲ製造シ自ラ試ルヿ久クシテ其説ヲ委ク錄シ又各圖式ヲ作リテ之ニ此一書ヲ著シ潤ニ藝林ノ關與ヲ補フ書ナリ

胸中山

全一冊

田能村竹田先生ノ画譜ヲ又儒ノ戲墨ヲ神出鬼没ノ筆ヲ

緇林年芳

迦刻　全三冊

此書ハ世尊ノ降誕涅槃ヲ初メテ和漢佛法ノ始祖像傳來或ハ翻譯佛法ノ事或ハ石勒ノ佛圖澄ヲ信ジ梁ノ武帝ニ見ヘ或ハ百濟ノ曇慧ニ戒劍ヘ来リ空海ノ唐ニ入玄奘ノ西域ニ到リ日蓮ノ一宗ヲ弘ル等事實百般後漢ノ明帝ニ起リ我天保年間ニ至テ干支ヲ符シ紀元ヲ掲ケ和漢ノ書數十部ヲ以テ其下ニ抄錄悉ク小傳ヲ記載シタレバ和漢ノ年數ヲ探リ履歷顛末ヲ索ルニ甚便利ノ書ナリ

遊仙屈抄

唐張文成作　學士伊時點　全五冊

頭書

本邦ニテ中華ノ小説ヲ譯解スルハ此書ノ以テ始祖トス嵯峨天皇ノ時學士伊時ナルモノ神山ノ訣ノ得テコレヲ解ストイヘリ小説家必讀ノ書ナリ

譯解笑林廣記

遊戲主人纂輯　懷道人譯解　全二冊

コレハ漢土ノオトシバナシニシテ面白キコトカギリノキ書ナリ俗語バカリニテ讀ヅタキニ今和解註釋ノカヘ誰ニラモヨメ來クナセリ助俗語小説ヲヨミ習ハントスルニハ漢土ノ人情ヲ知ラザレバ解マリ難ハズ此書ニハイカナルヿモ悉ク漏リズアル故ニヨク人情俗態ニ達スルニ妙ナリ故ニ俗語ヲヨム人ノ捷徑ニシテ關ベカラザル書ナリ

梧坡教諭

錦城先生附言　堯民先生著　全二冊

世教勸戒ノ意ヲモトニシテ旁ラ故事古書ヲ引テ証明シタレバ梧窓漫筆ニ類シテ別ニ捷徑ヲ開キタル珍書ナリ

談鋒資鋭

堯民荒井先生著　全二冊

此書ハ平日錦城先生ニ聞ク処及ビ後ノ隨筆中論スル処ヲ別ニ記シテ學者ノ資トス又小説ノ奇事奇談等ハ大ニ看ルベカラザル書ナリ

近代著述目録 横本 全五冊

同後編 玉巖堂主人輯 同 近刻 全五冊

慶長年間ヨリ天保ノ今ニ至ルマデ其道ニ名アル人ノ著述ヲ悉ク載シ邨編イロハ四十七音ハ其姓氏ヲ排列セリイノ部ハ伊藤仁齋伊勢貞丈ト表シ其下ニ書目ヲ舉タリ近世目録ノ書頗ル多シトイヘドモ皆板行セル者ノミヲ載テ諸家ノ深秘寫本ヲ以テ世ニ孤行セル者ヲ記スルヲトナシ此書ハ珍卷奇冊人ノ聞見ニ及バザル者ヲモ探索シテ遺スコトナシ只書目ヲ知ノミナラズ諸家ノ姓名字號俗稱鄉貫等ヲモ詳ニ附シタレバ其小傳ノ用ニ充ルニ足レリ雲顧ノ君子一本ヲ架上ニ貯ヘ一遍讀シ玉ハバ更ニ博識ノ一助トナルベシ

掌中書名便覽 高井蘭山先生著 初本 全一冊

上ハ六經ヨリ下ハ稗史ニ至ルマデ其目ヲ掲ゲ一見シテ益アル一夥シ

唐土歷代著述目録 玉巖堂主人著 横本 近刻 全冊

此書ハ初メニ徳製ノ書目ヲ舉ゲ次ニ歷代名家ノ著述聖賢ノ經傳ヨリ諸子百家ノ書演義小説ノ類ニ至ルマデ悉ク收錄シイロハ四十七音ヘ其姓氏ヲ配入シ後新舊ノ次序ヲ分チ其下ニ書目ヲ錄シ索摸ニ便ナラシム讀書家ノ一ト目ヲ貯ヘ玉ハバ多クノ利益ヲ得ベシ

朱子家訓經典餘師 著述堂主人著 全一冊

此書ハ南宋ノ名儒朱子平生子孫ヲ教ラレシ家訓ニテ人倫ノ道ヲ明ニシ五常ノ理ヲ述ラレシユヘ自ヲ修家ヲ齊ルノ最一ナリ故ニ今國字ヲ以テ審ニ和解ス

朱子年譜略 高宮山華著 全一冊

朱子訓子狀 高宮山華著 全一冊

西銘附東銘 全一冊

産科發蒙 片倉元周先生著 全四冊

此書ハ妊娠中ノ諸症臨産ノ經驗治方ヲ悉ク擧ゲ且産論翼ノ備ハラザルヲ補ヒ萬古以來醫書ニ未ダ所ノ發明シ又所ノ蘭陀難産ノ圖二十七ヲ載テ當ニ示シ且家秘ノ妙方ヲアラハシタレバ其治療ニ益アルノ擧テ數フベカラズ醫ヲ業トスルモノ一日モ此書ナクンバアルベカラズ

徵癘新書 片倉元周先生著 全一冊

此書ハ古ヨリ難治ノ癩病ノ先ヲ燒針ヲ刺シ與藥ヲ以テ毒ヲ去ル事ヲ發明シテ千古以來ノ無キ治術ヲ萬世ニ傳ルノミナラズ又梅瘡ノ治法此書ヲ能ク覆讀トスレバ何ナル難症ニテモ治セザルハナシ實ニ天下第一ノ奇書ナリ

睜儉堂治驗 同上 全三冊

此書ハ先生數十年來ノ治驗百中ノ一ヲ集メラレタルナリ病者ノ姓名住所前醫ノ治方又ハ自己ノ與ヘタル劑ノ効アルト効ナキトヲ包ムコトナク又麻疹ノ經驗方脚氣ノ治方並ニ弟子大森氏ノ治効十餘條ヲ記シ又衆醫ノ治スルト能ハザルトノ疾ヲ治シタル等國字ヲ以テ書シタレバ實ニ後進有益ノ書ナリ

傷寒啓微 同上 全三冊

此書ハ傷寒論ノ諸註家未タ言ハザル所奥義ヲ發キ瘟疫ト傷寒ト同病タルヲ辨明シ且傷寒金匱二書ノ分ニ疑ヒアルヲ解明スル所ノ治方ヲ唐宋ノ醫書ニ據テ又經驗スルトコロノ効定十七方並ニ十種ノ方ヲアゲテ治療ノ助トス今治療ノ法ニ其益甚多クシテ人ヲ濟フニ深カラザルナリソノ新定スル所ノ諸方又死症ヲ發明スル妙處ニイタリテハ實ニ仲景ノ羽翼ト謂ベシ

青嚢瑣探　片倉元周先生著　全二冊

此書ハ先生ノ漫筆ニシテ人ノ戒トナリ又初學ニ教ヘ業ヲ勸メ人情ノ免レザル所ヲ記シ且奇效アル秘方並ニ甲斐ノ德本ノ經驗十九方ノ主治藥方ヲ擧ク醫家ノ重寶ナル書ニシテ又俗家ニテモ是ヲ讀トキハ發憤シテ壯年ノ益トナル事多シ

瘍科秘録　東軒本間先生著　全十二冊

華岡翁ノ遺教ヲ述ヘ又先生ノ自ラ發明スル所ノ術ヲ加ヘ瘍科ノ治法ヲ論ズルノ書ナリ初ニ病名ヲ正シ病因ヲ論ジ次ニ辨證ヲ説キ癌瘍ノ變ヲ正シ輕重死生等ヲ詳ニス終ニ禁方秘術ヲ載セ實ニ瘍科全書ナリ[illegible]書ヲ熟讀シテ治療ヲ施ス寸ハ起死回生ノ功ヲ立ル所ニ成[illegible]

瘟疫不求人方論　明楽隠士著　全一冊

歴代名醫一覧　雄門先生著　全二冊

丸散 兼用 方機　小本　全一冊

此書ハ東洞先生ノ作ニシテ金匱傷寒ノ方妙用アルヲ記セリ是先生常用ノ方[illegible]臨病ノ機變活用コノ書ニ[illegible]法ヲモ載セタレバ大ニ幼學治療ノ益トナル[illegible]

秘傳重寶記　山田[illegible]　折本

[illegible]

簡易養生記　沼語窓先生著　全一冊

[illegible]

書學大概　神通北海先生著　全一冊

此書ハ執筆ノ法ヲ正シ古人ノ論説ヲ録サシ學テ研究ナシ明ニ解レタレハ和漢古今書法ノ必用ナリ

舊蹟紀聞　近綱法師著　全二冊

皇朝ノ事蹟ヲ考ヘ古語古書ヲ引證テ國學ノ一助トス

三餘叢談　柳屋主人著　全一冊

皇朝の國史或ハ古き物語[illegible]詳しからざることも[illegible]考察したる壹冊なり

翁野さらし紀行　成美大人抄　全一冊

[illegible]

近世名家書画談　安西雲烟著　全二冊

[illegible]

同二編　同上　全四冊

[illegible]

棟梁集　松屋主人著　全一冊

神道玉鋒の道草　跡部光海著　全一冊

道彦自書画三十六歌仙　全一冊

五百重波　本間游清著　全一冊

笑戯自知録　伴田陳人著　全二冊

茂睡真蹟卅七首　折本　全一冊

開卷百笑　談洲樓馬馬太人評　全二冊

陰陽新撰八卦鈔　全一冊

瓶花圖式　全二冊

理髮尼乃記　全一冊

於安上吾物語　合刻全一冊

於義久物語

老農夜話　須田正芳著　全一冊

増補日用　男重寶記　島井蘭岩先生著　全五冊

増補日用　女重寶記　同上　全五冊

野總茗話　常盤潭北著　全二冊

東江先生書話　全三冊
我邦唐法書ニ根據シテ書學變セルモノハ先生ヲ以テ祖師トナス此書ハ諸家隨筆中ヨリ古名人ノ墨蹟ニ關ル事ヲ考索シテ學書ノ人傳識ヲ資ニ有用ノ珍編ナリ

月儀帖　東里先生書　全一冊

五體雲淡帖　星池先生書　附釋文　全一冊

扇面清風帖　清人集書　星池先生校　全一帖

玉屑帖　星池先生書　全一帖

和漢對照書札　初編二編　全二冊
清朝時應用書牘ヲ和文ニ翻譯シ以テ學問ノ益ニシテ且ツ星池氏ノ書遒美ナルヲ嘆賞スベシ

孫過庭書譜　草書　詩佛茂海西先生跋　全一帖

東坡大江東帖　草書　全一帖

米元章主家帖　行書　全一帖

趙子昂大湖帖　行書　全一帖

董其昌衆鳥帖　行書　全一帖

董其昌登龍帖　草書　全一帖

古今名蹟墨寶帖　王面　全一帖
上古三蹟ヨリ以ハ源平諸將以來武家或ハ逸ク名臣僧家ニ名アル人ノ真蹟ヲ刻シタル上古ヲシタフ君子ノ机上ニ必アルベキ書ナリ

品物名數抄　松澤老泉著　全一冊

農家調寶記　高井蘭山先生著　全三冊
此書ハ天地開闢ノ神代ヨリ始メ日本ノ數方俗數物名數ヲ檢索ノ便ニ取捨ノ要ヲ撰ミ其ノ式ハ名目ノ下ニ其ノ名ヲ注シ其ノ式ハ名目ノ下ニ其ノ名ヲ注シ

農家用文章大全　同上　全一冊
用文章ノ書數多アリトイヘトモ世俗ニ出ル所ノ通俗ノ文ハ或ハ花ヤカニ多ク文詞又ハ俗流ノ粗雷ニ成テ世ニ出ハ文章ヲ以テ日用ノ文字ハ農具ノ名目耕作ノ要用ノ文ヲモ忘ラル事中ニ式ノ時ハ用ヲ以テ

農家調寶記附錄　大藏永常著　全一冊
名除蝗錄
此書ハ田ノ除蝗ニ付テ一ツ問答ヲ以テ其ノ仕方ヲ詳ニ記シ且ツ其後ノ驗法ノ得失ヲ考ヘ其ノ後ノ驗法ノ得失ヲ考ヘ

農家調寶記續錄　同上　全一冊
名蠶家
此書ハ蠶ヲ掛テ掛ヲ出シ繭ヲ取テ絹ヲ織ル迄ノ事ヲ記シ其ノ一ツ一ツ詳ニ考ヘ

増補 年中用文大成 臨泉堂先生筆 大冊 全一冊

増補 紅梅用文章 同筆 全一冊

増補 女諸用文章 御家橘正敬筆 全一冊

麈劫記 いろけ引 十露盤獨稽古 宮崎三之著 全一冊

子孫繁昌記 手島堵菴著 全一冊

家業相続力 中屋三郎著 全一冊

墨河八景帖 御家攀雲著 全一冊

長雄書札文集 船田淵上著 全一冊

頭書通俗用文章 全一冊

経典餘師 弟子職 後百年先生著 全一冊

實語教童子教證註 [illegible]著 全一冊

古状揃證註 [illegible]月蘭山翁著 全一冊

御成敗式目證註 同上 全一冊

経典餘師 菅家文章 高井蘭山注 全一冊

日本國郡附 西面摺 一紙

古錢鑑價附 全一冊

泰平年代記 西面摺 全一冊

今川童蒙解 全一冊

大橋先生手簡　全一帖
御成敗式目頭書繪抄　全一冊
蓮池堂任槐帖　全一冊　同假名附
長雄女今川　全一冊　同抄
女今川千代見種　頭書繪入　全一冊　庭訓往来無點
實語教童子教　頭書無點　全一冊　弘文庭訓往来　點無　大字無點　全一冊
同頭書西點　全一冊
古状揃萬寶蔵　頭書無點　全一冊
文貨古状揃　頭書假名附　全一冊
古状揃諸狀　島井蘭山注　全一冊
叢不江戸往来　頭書無點　全一冊　教懺庭訓往来寶文房　假名附頭書　全一冊

三都

京都寺町通松原下ル町　勝村治右衛門
大坂心齋橋通北久太郎町　河内屋喜兵衛
同　安堂寺町　秋田屋太右衛門
同　博勞町　河内屋茂兵衛
同　南久太郎町　伊丹屋善兵衛
尾州名古屋本町七丁目　永樂屋東四郎
江戸日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　淺草茅町二丁目　須原屋伊八
同　日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
同　芝神明前　岡田屋嘉七
同　横山町三町目　和泉屋金右衛門

書物問屋